

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第144集

枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ

長野県佐久市岩村田上直路遺跡Ⅲ発掘調査報告書

2007.3

渡 辺 一 男
佐久市教育委員会

例言

- 1 本書は渡辺一男による集合住宅建築事業に伴う枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市岩村田857-1 渡辺 一男
- 3 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地 枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ (IBKⅢ) 佐久市岩村田字上直路1086-1, 1086-3
- 5 調査担当・編集・執筆 上原 学
- 6 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。
H-竪穴住居址 M-溝跡 D-土坑
- 2 スクリーントーンは以下の通りである。

遺構

地山断面

掘方

遺物

赤色塗彩・朱

黒色処理

- 1 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺構 竪穴住居址・土坑1/80 溝跡1/100
遺物 土器 1/4
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 4 調査グリッドは4×4mである。

目次

例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯	1
1. 立地と経過	1
2. 調査体制	1
3. 遺構と遺物の詳細	2
4. 基本層序	2
第Ⅱ章 遺構と遺物	2
H1号住居址	2
H2号住居址	5
H3号住居址	6
H4号住居址	8
H5号住居址	9
M1号溝跡	11
D1号土坑	11
写真図版	
抄録	



調査区位置図(1:100,000)



調査区位置図(1:10,000)

第I章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

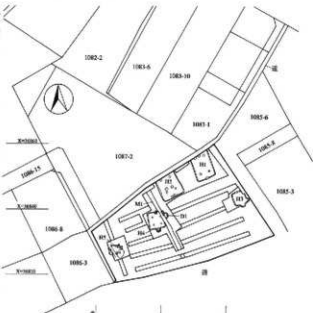
枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅱは佐久市岩村田市街地北西の浅間山の麓から放射状に延びる田切り地形の台地南端付近に位置し、現況は南西に向かって緩やかに傾斜する。標高は716m内外を測る。

周辺地域には多くの遺跡が所在し、弥生時代から平安時代を主とする遺構が多数発見されている。代表的な調査としては、対象地西側に於て弥生時代後期の住居址2軒、古墳時代の住居址3軒を調査した上直路遺跡をあげることができる。このうち弥生時代の住居内には、住居廃絶時に埋葬されたと思われる屋内埋葬墓が存在し、両腕に併せて14点以上の帯状円環形銅剣をはめた人骨が発見され注目された。これまで佐久市内の調査によって、弥生時代の青銅又は鉄製銅を出した遺跡は銅剣が上直路遺跡1号住居址屋内埋葬墓、五里田遺跡2号円形周溝墓、北一本柳遺跡1号住居址・1号土坑墓、円正坊遺跡V1号住居址、清水田遺跡Ⅱ2号住居址、鉄剣が上直路遺跡2号住居址、五里田遺跡5号住居址、後家山遺跡1号木棺墓など数多く認められる。このことから、佐久地域において金属製銅は身分を示す上で重要な装身具の一つであった可能性も考えられる。

今回、集合住宅建築事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。結果、住居址5軒・溝跡・土坑が認められたことから、事業主体者と協議を重ね、遺構の記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。

2. 調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長	三石 昌彦
事務局	社会教育部長	柳沢 義春	
	文化財課長	中山 悟	
	文化財保護係長	高村 博文	
	文化財調査係長	高柳 正人	
	文化財保護係	荻原 留美	高橋 浩一
	文化財調査係	林 幸彦	須藤 隆司
		富沢 一明	神津 格
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子	小林 眞寿 羽毛田卓也
調査担当者	上原 学		上原 学 出澤 力
調査員	阿部 和人	甘利 隆雄	市川 昭 碓氷 知子 江原 富子
	柏木 貞夫	柏木 義雄	加藤 信一 菊池 喜重 小林百合子
	小山 功	清水 信一	中嶋フクジ 林 美智子 細堂ミスズ
	武者 幸彦	百瀬 秋男	山田 和子 油井 陽介 渡辺久美子
	渡辺 長子		



試掘トレンチ・遺構配置図(1:1,000)



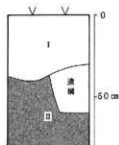
上直路遺跡屋内埋葬墓銅剣出土状況 (S60年調査)

3. 遺構と遺物の詳細

遺 構 竪穴住居址 5軒（弥生時代後期2軒 古墳時代後期3軒） 溝跡 1条（古墳時代以降）
土坑 1基
遺 物 弥生土器（甕・壺・鉢・高坏・甗） 土師器（坏・甕・壺・甗・高坏・鉢・すり敵き石）

4. 基本層序

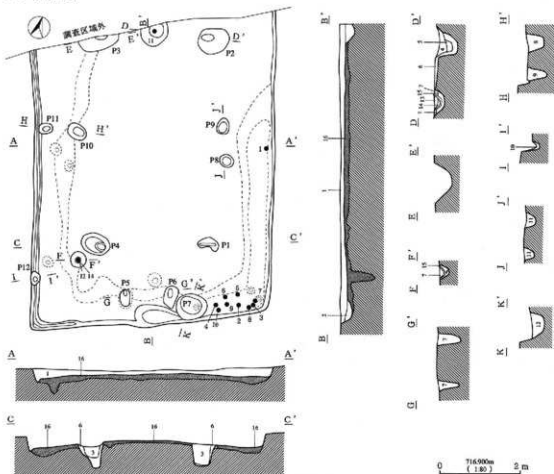
佐久市北部の台地上は、現在の浅間山が形成される以前 2,800mを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心を成す前掛山に成長する際、降下火山灰及び軽石流が大きく2度に渡り堆積した。（下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2）その厚さは地域によって20mを超え、この堆積した黄褐色土を表土である黒褐色土が覆っている。調査対象地は果樹園として利用されていた地域で、遺構確認面までの層厚は30cm内外と薄い。層序は上層から層厚30cm内外の表土、遺構確認面である黄褐色のローム土である。



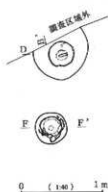
基本層序模式図

第II章 遺構と遺物

H1号住居址



H1号住居址実測図(1)

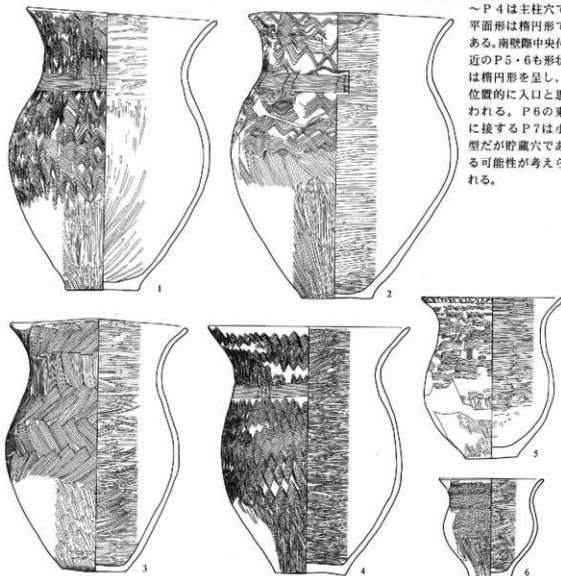


1. 暗褐色土 (10YR5/5) 炭化物、礫石、 π - δ 粒含む。
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 炭化物中が多い、 π - δ 粒含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質、 π - δ 多い。
4. 暗褐色土 (7.5YR3/3) π - δ 粒、軽石少量。
5. 鈍い褐色土 (7.5YR3/5) π - δ 主体。
6. 鈍い褐色土 (7.5YR3/6) π - δ 主体。
7. 黒褐色土 (10YR2/2) π - δ 粒少量。
8. 褐色土 (7.5YR4/5) π - δ 多い、礫石含む。
9. 赤褐色土 (10YR5/5) π - δ の混合土。
10. 暗赤褐色土 (5YR3/4) π - δ 粒、礫石少量含む。
11. 暗褐色土 (10YR3/5) π - δ 7' π - δ 粒子、軽石含む。
12. 暗褐色土 (10YR3/5) π - δ 粒、軽石含む。
13. 暗褐色土 (10YR3/4) π - δ 多い、軽石含む。
14. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土質、炭化物。
15. 暗赤褐色土 (7.5YR2/2) π - δ 、礫石。
16. 褐色土 (7.5YR4/6) 硬質、(無方)

H1号住居址が踏実測図

遺構は対象地の北東隅に位置し、北側4分の1弱は調査区域外となる。平面形態は長方形と思われる。規模は東西5.8m、南北は確認規模の最大で7.4m、確認面から床面までの深さは中央部で5cm、壁際で35cm内外を測る。覆土は単層で暗褐色土が埋め込まれていた。床面は堅く土間状を呈し、中央付近がやや高く、壁際に向かって緩やかに傾斜する。西壁際から南壁の一部まで幅18cm、深さ10cm程度の溝が巡らされていた。ピットは床面上から12個認められ、P1

~P4は主柱穴で平面形は楕円形である。南壁際中央付近のP5・6も形状は楕円形を呈し、位置的に入口と思われる。P6の東に接するP7は小型だが貯蔵穴である可能性が考えられる。

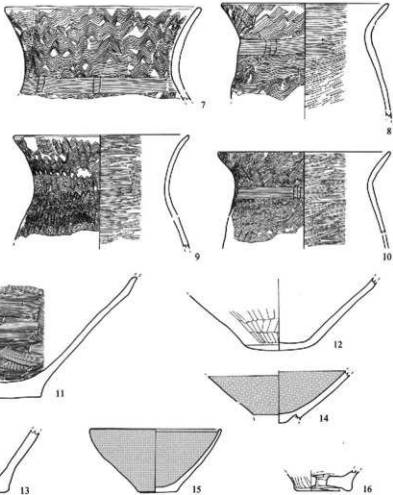


H1号住居址遺物実測図(1)

炉は北側の支柱穴であるP2・3間及びP4南西脇の2箇所に位置し、ともに壺底部周辺を埋設する。南西隅に位置する炉は小型の簡易的な炉であるが用途は不明である。掘方は10～15cmの厚みで褐色土が埋め込まれ、上面は硬化している。床下から性格不明の小ピット6個を確認した。

遺物は弥生土器の甕・壺・鉢・高坏・甗・すり敵き石が出土し、特に東壁際、南東壁際から出土した土器は良好な状態を保っていた。また、土器が集中した南東壁際では甕の胴部から下部を欠損した口縁周辺部を器台として利用していた状況が確認できた。

本住居址は、住居址及びピットの形状、支柱穴間に位置するが、出土遺物の特徴から弥生時代後期前清水期とした。



H1号住居址遺物実測図(2)

番号	器種	形状	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	出土位置・状況	埋設層・部位	備考
1	弥生土器	甕	23.4	9	34.6	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	95	外周110/44(1)部は弥生時代(1)と見られる。
2	弥生土器	甕	20.4	6.7	35.1	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	95	外周部は弥生時代(1)と見られる。
3	弥生土器	甕	21.8	7.7	30.9	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	90	外周部は弥生時代(1)と見られる。
4	弥生土器	甕	24.6	9.0	30.4	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	95	外周110/44(1)部は弥生時代(1)と見られる。
5	弥生土器	甕	17.6	6.2	19.7	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	80	外周部は弥生時代(1)と見られる。
6	弥生土器	甕	12.7	3.0	13.1	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	90	外周部は弥生時代(1)と見られる。
7	弥生土器	甕	24.1	-	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	埋設1100	外周110/44(1)部は弥生時代(1)と見られる。
8	弥生土器	甕	20.6	-	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	埋設1100	外周部は弥生時代(1)と見られる。
9	弥生土器	甕	17.6	-	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	埋設1100	外周部は弥生時代(1)と見られる。
10	弥生土器	甕	21.1	-	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	埋設1100	外周部は弥生時代(1)と見られる。
11	弥生土器	甕	-	14.2	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	高坏一取手下	外周部は弥生時代(1)と見られる。
12	弥生土器	甕	-	8.2	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	高坏一取手下	外周部は弥生時代(1)と見られる。
13	弥生土器	甕	-	14.1	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	高坏一取手下	外周部は弥生時代(1)と見られる。
14	弥生土器	高坏	-	-	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	90部	外周部は弥生時代(1)と見られる。
15	弥生土器	鉢	16.1	4.7	7.8	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	80	外周部は弥生時代(1)と見られる。
16	弥生土器	甕	-	7.5	-	外周部は弥生時代文様(1)と見られ、内周部は弥生時代(1)と見られる。胴部は弥生時代(1)と見られる。口縁部は弥生時代(1)と見られる。	埋設	外周部は弥生時代(1)と見られる。

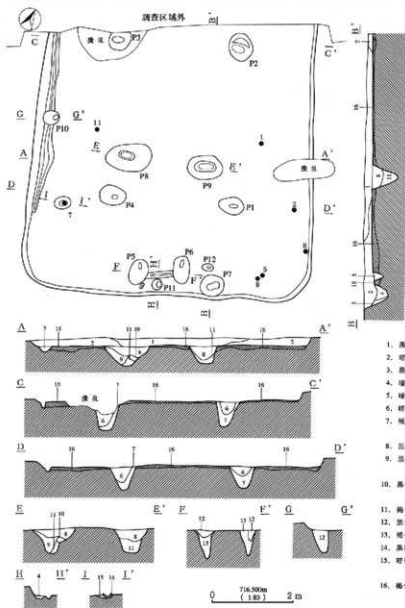
H1号住居址遺物観察表

H 2号住居址

遺構は対象地北東に位置し、北側は調査区域外となる。平面形態は隅丸の長方形と思われる。規模は東西7.2m、南北は確認規模で6.5m、確認面から床面までの深さは最深で20cmを測る。覆土は2層確認でき、壁際から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積の可能性が伺える。床面はH1号住居址ほどではないが、やや硬質平坦で西壁際のみ周溝が存在した。ピットは床面上から12個認められ、P1～P4は主柱穴、P5・6は入口に関すると思われる、ピット間に溝状の掘り込みを有する。形状は楕円形である。P6の東脇にはH1同様小規模で円形のピットが存在する。またP1・4の北側に近接して、主柱穴以上の規模を持つ楕円形のピットが存在するが、用途は不明である。P4の西に土器片を埋設した小型のものが認められたが北側ピット間には存在しなかった。北側隣接地の試掘調査によって、本住居址の北側部と思われる掘り込みが区域外3.5mの付近まで確認されていることから、住居址の南北長は実際10m以上を測る住居で、今はP2・3間のや

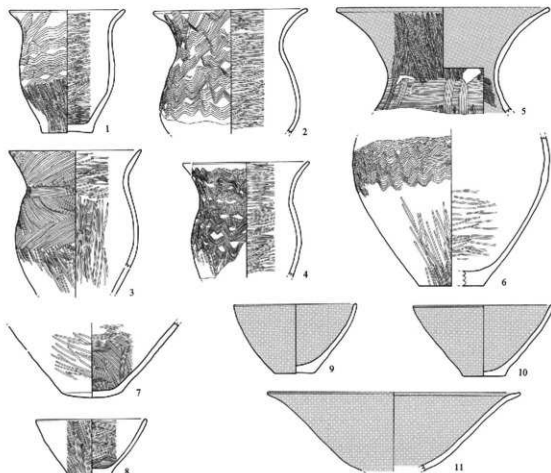
や北側の調査区域外に存在すると予測される。掘方は5cm内外と薄く、全体にやや堅さを持つ。遺物は弥生土器の甕・壺・鉢・高坏が出土し、南東隅周辺から比較的形の残る遺物が出土している。

本住居址は、住居址の特徴がH1に類似すること及び出土遺物から弥生時代後期箱清水期としたい。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) 0-4粒、礫石、炭化物。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) 0-1粒、礫石、炭化物。
3. 黒褐色土 (10YR3/3) 0-1粒、礫石。
4. 暗褐色土 (10YR3/4) 0-1? 2? 多い。
5. 暗褐色土 (10YR3/5) 0-4少量、礫石。
6. 暗褐色土 (10YR3/4) 0-4多い、礫石。
7. 褐色土 (10YR4/6) 0-2主体、黒褐色土少量含む。
8. 黒褐色土 (10YR2/2) 0-1粒、礫石。
9. 暗褐色土 (10YR2/3) 0-3と褐色土の混合土。
10. 黒褐色土 (10YR2/3) 0-1、礫石、褐色土多い。
11. 褐色土 (10YR4/6) 0-3主体。
12. 暗褐色土 (10YR2/3) 0-1粒少量。
13. 褐色土 (10YR4/6) 0-2主体、褐色土含む。
14. 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物、0-1粒。
15. 暗褐色土 (10YR3/3) 0-2粒中が多い、礫石含む。
16. 褐色土 (10YR4/6) 0-4多い、しまり中あり。(掘方)

H 2号住居址実測図



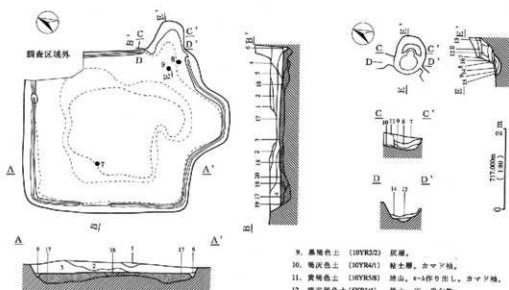
H2号住居址遺物実測図

番号	材質	器種	口径cm	高さcm	底径cm	備 考	検出層(階)	備考
1	赤生土製	壺	14.0	8.0	1.6	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	5階	外周17755-1404の褐色
2	赤生土製	壺	18.9	-	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1894の褐色
3	赤生土製	壺	14.2	-	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1404の褐色
4	赤生土製	壺	11.0	-	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1404の褐色
5	赤生土製	壺	16.2	-	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1404の褐色
6	赤生土製	壺	-	10.0	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1404の褐色
7	赤生土製	壺	-	1.2	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	6階上層~12階	外周17755-1404の褐色
8	赤生土製	壺	12.6	3.2	0.9	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	10階	外周17755-1404の褐色
9	赤生土製	壺	16.1	5.1	0.3	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	5階	外周17755-1404の褐色
10	赤生土製	壺	17.1	3.2	0.8	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	5階	外周17755-1404の褐色
11	赤生土製	高杯	13.1	-	-	外周部に土層状の突起あり。内面下部に土層状の突起あり。	10階	外周17755-1404の褐色

H2号住居址遺物観察表

H3号住居址

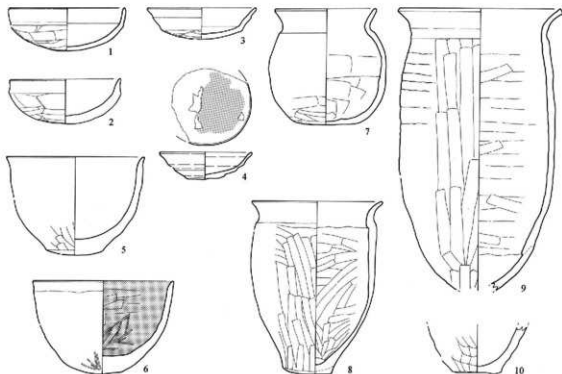
遺構は対象地東端に位置する。平面形態は方形で南壁中央に張り出し部を持つ。規模は東西4.1m、南北4.0m、張り出し部を含め4.8m、確認面から床面までの深さは30cm内外を測る。覆土は北壁側から流れ込んだ状況が認められることから自然堆積の可能性が伺える。床面は硬質で壁際には周溝が存在する。ピットは壁際に小ピット1個が掘り込まれていたほか、床下からも確認できなかった。カマドは東壁の南端に位置し、火床に焼土・灰・炭化物が堆積していた。袖が住居内に張り出さず壁外に火床が設置された形態と思われる。掘方は中央が高く周囲の低くなったドーナツ状に掘り込まれていた。遺物は土師器の環・鏃・鉢・高杯脚部欠損後転用環?が出土した。本住居址は出土遺物の特徴から古墳時代後期、7世紀としたい。



1. 暗褐色土 (10YR3/4) $\kappa=4$ 多く、軽石含む。
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 軽石、 $\kappa=4$ 少量、炭化物含む。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) $\kappa=4$ 多く、軽石、炭化物含む。
4. 黒褐色土 (10YR2/5) $\kappa=4$ 、軽石少量。
5. 暗褐色土 (10YR3/5) $\kappa=4$ 軽石やや多い、炭化物、粘炭粒、含む。
6. 暗い黄褐色土 (10YR4/5) しまりなし。
7. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘土少量。
8. 暗赤褐色土 (5YR3/6) 炭土、灰、粘土含む。

9. 黒褐色土 (10YR2/2) 灰層。
10. 暗灰色土 (10YR4/1) 粘土層、カマド跡。
11. 黄褐色土 (10YR5/8) 焼山、 $\kappa=3$ 作り出し、カマド跡。
12. 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土、灰、炭化物。
13. 暗赤褐色土 (5YR3/5) 粘土、炭化物少量。
14. 暗褐色土 (10YR3/3) $\kappa=4$ 、軽石多い、粘土粒少量。
15. 黒褐色土 (10YR2/3) $\kappa=4$ 、軽石多い、粘土粒少量。
16. 暗灰色土 (10YR4/1) 粘土層。
17. 暗褐色土 (10YR3/5) 黒色と褐色の混合土。
18. 暗い黄褐色土 (10YR4/5) $\kappa=4$ 多く、黒褐色土含む。
19. 黄褐色土 (10YR5/6) $\kappa=3$ 層。
20. 黒褐色土 (10YR2/2) $\kappa=4$ 少量。

H 3号住居址実測図



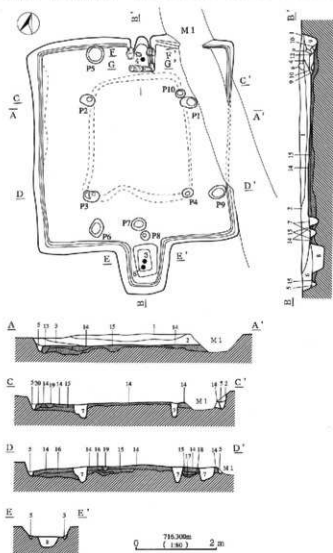
H 3号住居址遺物実測図

調査年度	調査種別	調査区画	面積(m ²)	調査内容	調査結果	備考
1	土壌調査	114号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	80	内蔵(10YR5/6)褐色
2	土壌調査	116号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	70	内蔵(10YR5/6)褐色
3	土壌調査	118号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	30	内蔵(10YR5/6)褐色
4	土壌調査	高塚?	11.0	118号ナマ 内蔵へつりナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	80	内蔵褐色
5	土壌調査	118号	4.6	内蔵へつりナマ 内蔵へつりナマ	15	内蔵(10YR5/6)褐色
6	土壌調査	114号	4.6	内蔵へつりナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	50	内蔵(10YR5/6)褐色
7	土壌調査	116号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	30	内蔵(10YR5/6)褐色
8	土壌調査	118号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	70	内蔵(10YR5/6)褐色
9	土壌調査	118号	4.6	白塚遺跡ナマ 高塚へつりナマ 内蔵へつりナマ	80	内蔵(10YR5/6)褐色
10	土壌調査	118号	4.6	内蔵へつりナマ 内蔵へつりナマ	80	内蔵(10YR5/6)褐色

H3号住居址遺物観察表

H4号住居址

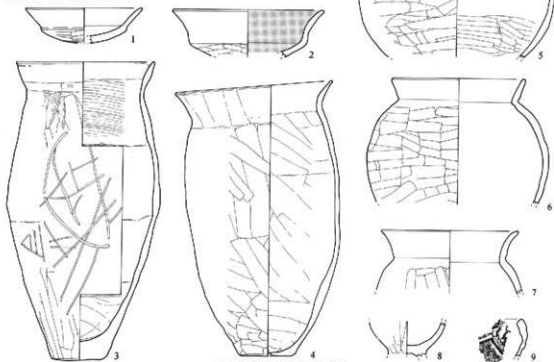
遺構は対象地中央付近に位置し、M1に切られ、D1を切る。平面形態は方形で、南壁中央に方形の張り出し部を持つ。規模は東西4.6m、南北5.0m、張り出し部を含め6.0m、確認面から床面までの深さは30cm内外を測る。覆土は黒褐色・暗褐色土が壁際から流れ込んだ状況で交互に堆積していることから、自然堆積である。



- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂少量。
- 暗褐色土 (10YR3/3) 砂中多い。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、礫石中多い。
- 暗褐色土 (7.5YR3/4) 礫土、炭化物含む。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 砂中多い、礫石含む。
- 暗褐色土 (10YR3/2) 砂、礫石中多い。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、礫石、しまりなし。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、礫石、炭化物、しまり中やあり。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂、礫石少量、しまりあり。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 砂中多い。
- 黒褐色土 (10YR2/2) 砂、炭土少量。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 礫石多い。
- 黒褐色土 (10YR2/2) 礫石多い。
- 暗褐色土 (10YR3/3) 灰色、褐色の混合土、礫石多い、しまりあり。
- 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 砂、褐色、灰色の混合土。
- 黄褐色土 (10YR5/6) 砂主体、褐色土含む。
- 灰い黄褐色土 (10YR5/4) 砂主体、褐色土含む。
- 黒褐色土 (10YR2/2) 砂、礫石含む。
- 暗褐色土 (10YR3/3) 砂、礫石少量。

H4号住居址実測図

る可能性が伺える。床面は硬質で土間状を呈し、張り出し部を含めた壁際に周溝が存在する。ピットは床面上から10個確認でき、P1～P4が主柱穴である。張り出し部分には長方形の土坑が掘り込まれ、ほぼ完形の長胴甕が横たわっていた。胴部表面には、ミガキ状の文様が認められる。何かを表現したものであろうか。カマドは北壁中央に構築されており、袖及び焚き口部の天井石及び支脚石が残存していた。圍方は中央を高く残し、周りを深く掘り込んだドーナツ状を呈し、ローム・腐植土が混じり合った暗褐色土・褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器が中心で、坏・甕・壺・高坏、混入として縄文土器片が1片出土した。古墳時代後期、6世紀としたい。



H4号住居址遺物実測図

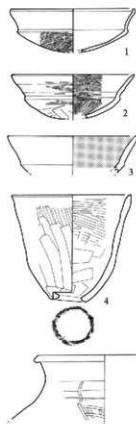
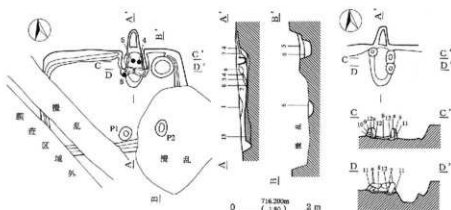
番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	調査・文相	埋蔵層・部位	備考
1	土師器	钵	[14.2]	丸底	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部残存し	瓦葺→口縁部	内径17.5cmの浅い褐色
2	土師器	钵	[18.6]	丸底	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部残存	瓦葺→口縁部	内径21.5cmの浅い褐色・褐色
3	土師器	甕	16.8	6.6	26.6	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部残存 内面ナギ部 輪郭不明	なし	内径17.5cmの浅い褐色・褐色
4	土師器	甕	15.5	6.2	23.8	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部 内面ナギ部	なし	内径17.5cmの浅い褐色・褐色
5	土師器	甕	[14.3]	—	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部	瓦葺→口縁部	内径17.5cmの浅い褐色
6	土師器	甕	[16.6]	—	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部	瓦葺→口縁部	内径17.5cmの浅い褐色
7	土師器	甕	[16.6]	—	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部	瓦葺→口縁部	内径17.5cmの浅い褐色
8	土師器	高坏	—	—	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部	瓦葺部	内径17.5cmの浅い褐色
9	縄文土器	片	—	—	—	口縁部ナギ 内面へラナリ 内面ナギ部	口縁部	縄文土器

H4号住居址遺物観察表

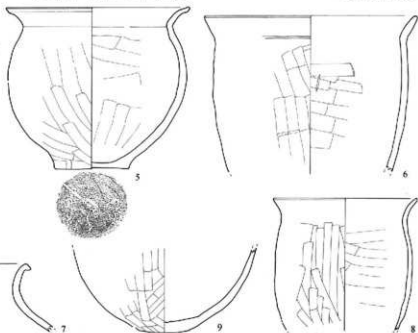
H5号住居址

本住居址は南側コーナー付近を大きく攪乱によって破壊されている。平面形態は東西方向に長いやや隅丸の長方形である。規模は東西3.4m、南北2.3m、確認面から床面までの深さは北壁最深部で25cmを測る。覆土は北壁方向から黒褐色土・暗褐色土が流れ込んだ状況で堆積していることから自然堆積である可能性が伺える。床面は硬質で土間状を呈し、壁際に周溝が存在する。ピットは床面上で2個確認できたが主柱穴であるかは不明である。北東コーナーには径56cm、深さ20cmの土坑が存在し、貯蔵穴と考えられた。カマドは北壁やや東寄りに粘土・石材を利用して構築され、両袖、焚き口部の天井石が残存していた。火床付近から土師器

の裏、完形品の小型甕が出土した。掘方は北側が浅く、南側が深い状況でローム主体の褐色土が4~15cmの厚みで埋め込まれていた。遺物は土師器の杯・甕・壺・甕が出土した。古墳時代後期6世紀とした。



1. 黒褐色土 (10YR2/3) #+4粒、軽石。
2. 暗褐色土 (10YR3/3) #+4粒、軽石、炭化物。
3. 暗褐色土 (10YR3/4) #+4粒、軽石、炭化物。
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土、炭化物、#+4粒、軽石。
5. 黒褐色土 (10YR2/2) #+4粒、軽石、炭化物。
6. 炭黒褐色土 (10YR4/2) #+5、軽石やや多い。
7. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土、炭化物含む。
8. 暗褐色土 (10YR3/4) #+5やや多い。
9. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土層。
10. 灰い黒褐色土 (10YR3/4) #+4J'+y/f。
11. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘土層。
12. 褐色土 (10YR4/6) #+2主体。
13. 褐色土 (10YR4/6) #+2主体、軽石多い。しまりあり。(掘方)



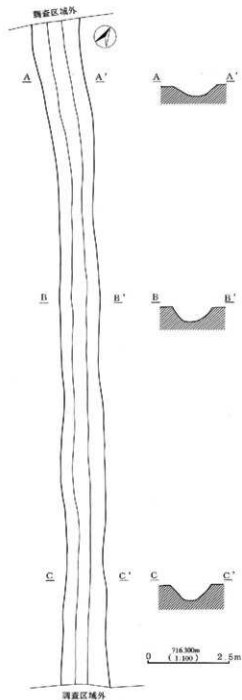
H 5号住居址・遺物実測図

層位	層種	厚さcm	西端cm	東端cm	調査・文書	写真番号	備考
1	土師器	11.0	40.0	26.0	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ・2口本 内面ナガ	40	内面ナガ1口本
2	土師器	15	40.0	26.0	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ・2口本 内面ナガ2口本	40	内面ナガ1口本・褐色
3	土師器	14.0	-	-	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ 内面褐色土層・2口本	40	内面ナガ1口本・褐色
4	土師器	10.0	4.0	13.0	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ・ナガナガ 内面ナガナガ・ナガナガ 片断ナガ	50	内面ナガ1口本・褐色・片断褐色
5	土師器	12.0	6.0	13.0	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ 内面ナガナガ	70	内面ナガ1口本・褐色・片断褐色
6	土師器	126.11	-	-	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ・2口本2口本 内面ナガナガ	80	内面ナガ1口本・褐色
7	土師器	117.21	-	-	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ・2口本2口本 内面ナガナガ 片断ナガ	80	内面ナガ1口本・褐色
8	土師器	17.0	-	-	白磁器ナガ 片断ヘソ割リ 内面ナガナガ	10	内面ナガ1口本・褐色
9	土師器	-	6.0	-	内面ナガナガ 片断ヘソ割リ 内面ナガナガ	10	内面ナガ1口本・褐色

H 5号住居址遺物観察表

M1号溝跡

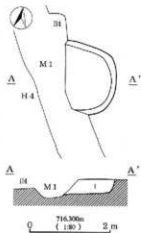
遺構は調査区中央をおよそ南北方向に掘り込まれ、H4、D1を切る。断面形態は逆「ハ」の字の斜面を持ち、底面は平らである。規模は確認面上での幅1.2～0.84m、底面幅0.25～0.4m、確認面からの深さは北で浅く、南に向かって緩やかに深さを増し、30～50cmを測る。遺物は出土しなかった。古墳時代の住居址を切ることから、これ以降に掘り込まれた遺構と考えられる。



M1号溝跡実測図

D1号土坑

遺構は調査区中央付近に位置し、H4、M1に切られる。平面形態は残存状況から隅丸の方形と思われる。規模は残存規模で東西1.3m、南北1.6m、確認面からの深は36cmを測る。覆土は黒褐色土と暗褐色土の混合土単層であることから人為的な埋土が行われたと思われる。遺物は出土しなかった。時期はH4に切られることから、古墳時代後期以前の遺構であろう。



1. 暗褐色土(10YR3/3)
2. 黒褐色、暗褐色の混合土。
D1号土坑実測図



調査風景(西から)



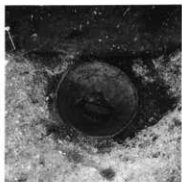
上直路遺跡Ⅲ全景(北西から)



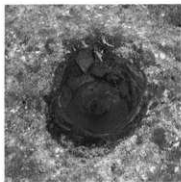
H1号住居址全景（南西から）



H1号住居址南東壁際遺物出土状況



H1号住居址北側炉跡



H1号住居址南側炉跡



H1号住居址東壁際遺物出土状況



H1号住居址掘方（南西から）



H2号住居址全景（北西から）



H2号住居址炉跡



H2号住居址遺物出土状況



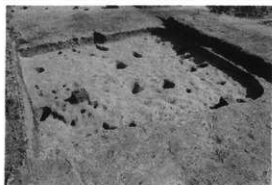
H2号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址遺物出土状況



H 2 号住居址掘方（北西から）



H 3 号住居址全景（西から）



H 3 号住居址カマド（西から）



H 3 号住居址掘方（西から）



H 4 号住居址全景（南から）



H 4 号住居址カマド（南から）



H4号住居址南壁張り出し部遺物出土状況(1)



H4号住居址南壁張り出し部遺物出土状況(2)



H4号住居址南壁張り出し部遺物除去状況



H4号住居址カマド掘方(南から)



H4号住居址掘方(南から)



H5号住居址全景(南から)



H5号住居址カマド(東から)



H5号住居址カマド遺物除去後



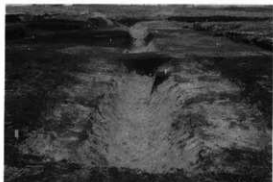
H5号住居址カマド天井石除去後



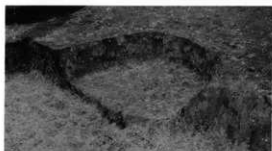
H 5号住居址カマド袖粘土除去後



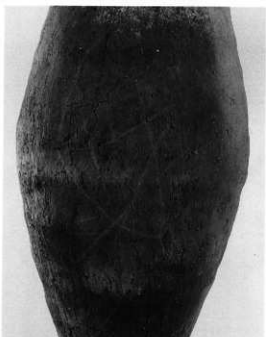
H 5号住居址カマド掘方



M 1号溝跡 (南から)



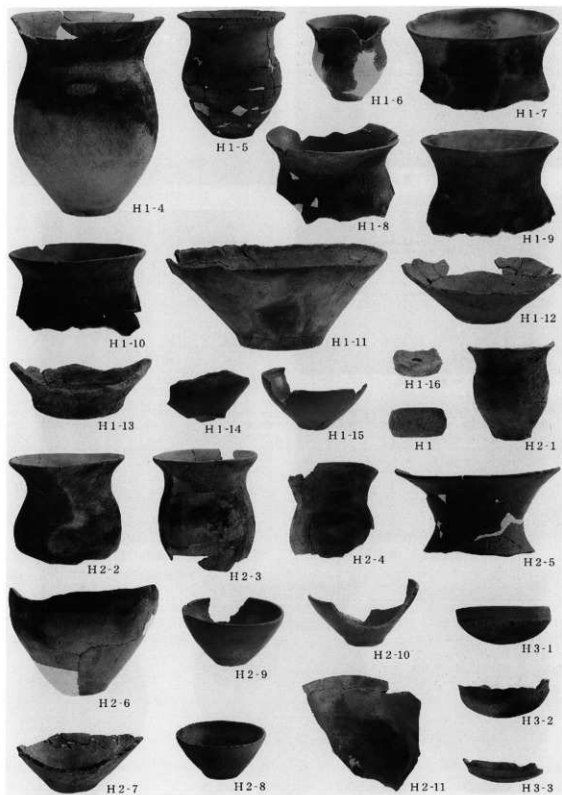
D 1号土坑全景 (南から)



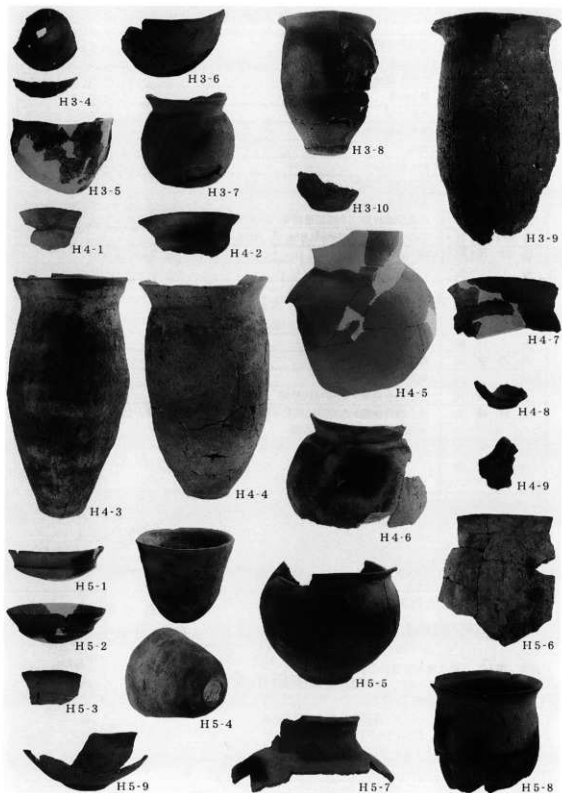
H 4号住居址出土遺物ミガキ状文様? (H4-3)



H 1号住居址出土遺物



H1·2·3号住居址出土遗物



H3·4·5号住居址出土遺物

報 告 書 抄 録

書 名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ
ふりがな	びわざかいせきぐん かみすくじいせきⅢ
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第144集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2007. 3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住 所	長野県佐久市志賀5953
遺 跡 名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ (IBKⅢ)
遺跡所在地	佐久市岩村田字上直路1086-1、1086-3
遺跡番号	41
緯 度	139.48.34
経 度	36.16.29
調査期間	2006.10.5～2006.10.20 (現場) 2006.10.23～2007.3.24 (整理)
調査面積	340m ²
調査原因	集合住宅建築
種 別	集落址
主な時代	弥生時代後期／古墳時代後期
遺跡概要	弥生時代後期+古墳時代後期-竪穴住居址5軒+溝跡1条+土坑1基-縄文土器 +弥生土器+土師器+石器
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第144集

枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅲ

2007年 3月

編集・発行 佐久市教育委員会
〒385-8501 長野県佐久市中込3056
文化財課
〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限公司

